

- 新川農林振興センター管内では雇用する法人経営体が増加しており、若い従業員などへの**人材育成の手法が必要**。また、トラブルが発生した場合のマニュアルがなく、責任の所在や原因が曖昧であり、対処方針が不十分な経営体が多い状況。更に販売先からのGAP認証取得の要請も増加。
- このため、農林振興センターでは、認証取得に意欲の高い経営体に対して、GAP手法を通じた農場管理・マネジメントの実践に向けた助言を行うとともに、取得までのポイントなどを取りまとめ**当センターオリジナルのマニュアルを作成**。
- この結果、二者点検や審査をとおして、自社の改善について必要性の認識が深まるとともに、**自ら改善策を策定・実践**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 第三者認証GAPの取得経営体の増加
 ■経営改善にGAPと取組み、認証された経営体が増加。
 平成27年度 0経営体 平成29年度 3経営体
 ⇒

平成24年～
 ■GAP推進チームによる「GAP研修会」を開催(年1回)
 ■安全な作業をスムーズに行うための人材育成やトラブルが発生した場合の対処方針が不十分な経営体に対し、**二者点検を実施**

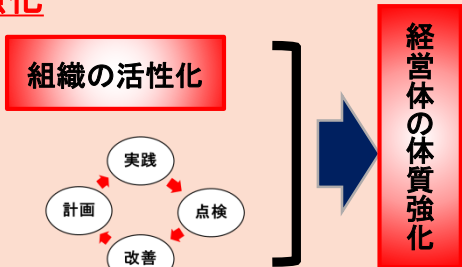
2 二者点検や審査をとおして、自社の改善の必要性の認識が深まるとともに、自ら改善策を作成・実践
 ■「農産物の安全」「農作業の安全」「環境保全」に係る、意識面・施設面が強化
 ■リスクを考慮した作業手順書の整備による、社員間の知識の共有化
 ■ICTの活用などによるトレーサビリティの充実・強化
 ■部門責任者の設置と役割分担の明確化

平成28年～
 ■第三者認証GAPを取得を目指す経営体に対して、
 ①普及員と経営体と**二者点検を実施**
 ②社内GAPチームの設立を提案
 ③「農作業の安全」、「作業者の健康と安全」及び「環境保全」に関する**リスク評価とその対応策の検討支援**
 ④コンサルタントの助言に基づく改善策の提示と改善指導
 などの取組みを実施
 ■所内で経営体ごとに、**担当普及員+所内GAPチーム員が担当する分担制**とし、**所内全体で取組む体制**を構築

3 経営者等の経営改善する意識の向上
 ■経営体や従業員の意識改革
 ①労働安全について認識が強化
 ②受け身の姿勢からの脱却
 ③自負心や使命感の醸成
 ■目的・目標の共有化による、**PDCAサイクルの強化**

普及指導員だからできたこと

・取組み経営体の実情に応じた、**所内横断的なGAP指導チームの編成**によって、
 1) 先行事例の共有化を図り、2) 他の経営体への指導に活用するなど、効果的・効率的な普及活動が展開できた。



大規模経営体へのGAP導入で体質強化

活動期間：平成24年度～

1 取組みの背景

当農林振興センターでは、GAP推進プロジェクトチームを中心に、研修会や二者点検を通じた改善方法の指導など、対象に応じた活動を行ってきた。

その成果などもあり、直売や輸出を目指す経営体などで、GAP認証取得に意欲を示す経営体が出てきた。

そのうち特に意欲の高い3経営体（A：経営面積92.9ha、B：経営面積138.1ha、C：経営面積51.4ha）に対し、GAP手法を通じた農場管理・マネジメントの実践に向けた助言を行うとともに、取得までの活動やポイントなどを取りまとめ、今後新たなGAP認証取得志向者への支援に活用する。



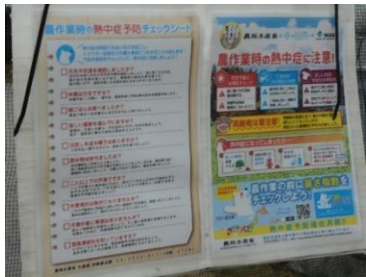
写真1 社内GAPチーム員との意見交換

2 普及活動の内容

(1) 所内GAP指導体制の整備

- ・経営体ごとに、主穀作（又は園芸）担当普及指導員＋所内GAPチーム員が担当する分担制とし、所内全体でGAP指導に取り組む体制づくりを構築した。
- ・JGAP認証取得の先行事例を所内で共有し、他の経営体への指導に活用するなど、効率的な普及活動に努めた。

(2) 経営体ごとの主な取組内容（年度の記述がないものは、29年度の取組み）

経営体名	経営体が主に取組んだ事項	普及が支援した事項
<p>A (JGAP+ ASIAGAP) (穀物) ※JGAP取得 29年3月 ※ASIAGAP取得 29年10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社内GAPチームの設置 ・施設内の整理と注意喚起の掲示（熱中症など）  <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得一覧表など関連書類の作成、整理 ・トレーサビリティのICT化 	<p>【28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二者点検の実施 ・社内GAPチーム員と一緒に整理整頓の実施 ・組織運営や費用に関することは、社内GAPチーム員に、経営責任者を加え、対応方針決定を促した ・「農作業の安全」、「作業者の健康と安全」及び「環境保全」に関するリスク評価とその対応策の作成支援 ・農薬や農機具の使用手順書の作成支援 ・審査で不適合項目の是正対応支援 <p>【29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASIAGAPへのステップアップに係る、経営者の農場運営の方針の明確化、栽培工程に係るリスク管理評価の策定支援 ・商品回収テスト案の提示と対応案の策定
<p>B (GLOBALG.A.P.) (青果物) ※30年1月取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP部門責任者の設置 ・就業規則の作成 ・リスク評価を基にした農場マニュアルの策定 ・作業日誌の改善による記録の充実強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルタントの助言に基づく改善策の提示と改善指導 ・栽培、収穫及び作業環境のリスク評価と対策案の提示

<p style="text-align: center;">C (JGAP) (穀物) ※30年3月取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の整理と注意喚起の掲示 ・トレーサビリティのICT化 ・資格取得状況や雇用などに係る一覧表整備 ・社内マニュアル、作業手順の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・二者点検の実施 ・JGAP指導員のコンサルタントに基づく書類整備の作成支援 ・「農作物の安全」、「作業者の健康と安全」及び「環境保全」に関するリスク評価と対応策の作成支援
--	---	--

3 普及活動の具体的成果

- ・二者点検や審査をとおして、自社の改善について必要性の認識が深まるとともに、自ら改善策を策定。

項 目	成 果
施 設	①農作物の安全 防油堤、農薬保管庫の設置 など ②農作業安全 農作業時のヘルメット着用、高所作業車やワイヤーの設置 ③環境保全 農業機械洗浄水の貯留池の設置など
経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者（役員）の権限の明確化と部門責任者の設置及び役割分担 ・資格取得などの記録を一元的に管理し、無資格者の作業従事防止を徹底 ・ICTを活用したトレーサビリティの整備 ・リスク評価と作業手順書の作成と社員教育への活用
そ の 他 (意識改革)	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全についての認識強化 ・受け身の姿勢から、従業員間で積極的に意見が出されるようになった ・自負心、使命感の醸成

4 農家等からの評価・コメント（入善町 A経営体会長）

若い従業員への社員教育及び農作業安全の強化のため、GAPの活用を考えていたことや農林振興センターからの強い勧めもあり、GAP認証取得に取り組んだ。

GAPに取り組むことにより、施設がきれいになったことや従業員の考え方が大きく変わり、受け身の姿勢から自主的に意見を出すなど、従業員教育にも大きな効果がみられた。

今後もGAPの取組みを継続し、地域により一層信頼される法人となるべく、普及からの支援をお願いしたい。

5 普及指導員のコメント（新川農林振興センター 副主幹普及指導員 森本禎章）

GAP認証の取得は、県内の一部経営体で進められていたものの、当農林振興センター管内では初めての事例となった。このため、経営体に「社内GAPチームの設置」を促し、当チームを主体に、共同作業で認証取得に向けた経営改善に取り組む、29年度には、県内初となるASIAGAP ver.1の認証を取得、また当該事例をモデルとしてGLOBALG.A.P.の認証を取得する経営体も誕生した。

この取組みの波及効果として、30年度は新たに7経営体がASIAGAP ver.2の認証取得に取り組んでおり、所内全体での支援を進めている。

6 今後の展開

GAPは農業経営の改善に有効であり、経営改善を要する経営体をはじめ、直売及び6次化を目指す経営体を中心として取得を提案するとともに、将来的には、輸出用米に取り組む経営体への団体認証の取得を推進していく。